

令和8年10月16日
福岡市福祉局

市政記者各位



「認知症の人にもやさしいデザイン」が 第5回アジア健康長寿イノベーション賞 生活環境部門グランプリを受賞しました！

福岡市では、認知症になっても安心して自分らしく暮らし続けられるまちづくりを推進するため、「認知症の人にもやさしいデザイン」の普及に取り組んでいます。

このたび、「認知症の人にもやさしいデザイン」が、「第5回アジア健康長寿イノベーション賞（HAPI）」生活環境部門でグランプリを受賞しました。

これからも先進的な取り組みとして、デザインの普及促進を図るとともに、得られた知見を国内外に情報発信していきます。

また、デザインのポイントをまとめた手引きを改訂しましたので、併せてお知らせします。

つきましては、多くの皆さまに本市の取り組みを知っていただくため、ぜひ取材及び広報にご協力くださいますようお願いいたします。

＜認知症の人にもやさしいデザイン導入事例＞



堤公民館



地下鉄橋本駅 駅前広場

【アジア健康長寿イノベーション賞とは】

高齢化に伴う様々な課題解決に向けた革新的なプログラム・政策等を表彰する国際的な賞。アジアで優れた知見の共有・応用を後押し、急速な高齢化に対応することを目的とし、今回はアジア 11 の国・地域から応募がありました。

■主催：公財）日本国際交流センター（JCIE）
東アジア・アセアン経済研究センター（ERIA）
日本政府による「アジア健康構想」の取り組みの一つとして実施

「認知症の人にもやさしいデザインの手引き」を改訂しました



自宅で使える
サインつき



認知症の人約 360 名への調査をもとに策定した新たなサインや、全国的にも先進的なまちづくりへの事例などを盛り込んだ「認知症の人にもやさしいデザインの手引き（第3版）」を発行しました。（詳しい改訂内容は次頁）

【問い合わせ先】
福岡市福祉局ユマニチュード推進部認知症支援課
担当：安恒、水浦 TEL：711-4790

主な改訂内容

注目 1 認知症の人にもやさしいサインの見直し・充実

- 認知症の人約 360 名に理解度調査を実施し、認知症の人特有の見え方・捉え方、適切な表現を分析
- 分析結果を踏まえて新しくサインを作成するとともに、認知症の人にも伝わりやすいサインの基本原則を整理

【理解度調査】各サインの伝わりやすさを調査し、新たなサインの作成などに活用



【新サインの例】



案内所



おす
左開き



立入禁止

【基本原則の例】

- ・文字とピクトグラムを併記する
- ・緊急・規制サインには×が有効
- ・矢印は上下で進行方向を示す など

注目 2 橋本駅周辺地区のまちづくりへの試行導入の事後評価の成果を反映

- 橋本駅周辺地区（駅前広場、駐輪場、道路、公園）で「認知症の人にもやさしいデザイン」を試行導入し、認知症の人や専門家とともに利用しやすさを検証
- これからのまちづくりへ向けた活用ポイントを掲載



駅前広場、駐輪場、道路での試行導入の様子

【活用ポイントの例】

- ・直感的にわかるよう色（明度）と目印を活用する
- ・シンプルで肯定的な案内と連続した手掛かりを置くことで迷ったときの不安を低減する など

3 家庭でできる工夫を拡充

認知症になっても自宅で暮らし続けられるよう、福祉用具を含め家庭でできる工夫を拡充

- ・ 手すり・ステップ（踏み台）は色の差も意識して選ぶと、見つけやすく移動しやすい
- ・ 色で食べ物と器の区別をつけると食事量が増える。（食事量 25%、水分摂取量 84%増）

4 導入事例の更新・追加

導入の参考となるよう、認知症の人にもやさしいデザイン導入施設等の事例更新・追加

注目 5 巻末付録として、自宅で使える認知症の人にもやさしいトイレサインを追加

【改訂版について】（日本語版・英語版） 発行日：令和8年10月16日（金）

- ・市ホームページから無料ダウンロード可。
- ・冊子の購入は、福岡市情報プラザ（市役所本庁舎1階）等 ※冊子は1,100円（税込）

⇒ 詳細は市ホームページ「認知症の人にもやさしいデザイン」をご覧ください。▶



<https://www.city.fukuoka.lg.jp/fukushi/dementia/health/00/04/ninntichoudesign/3-040106.html>